住化・住武相談室だより

第3号　3月10日
発　行　住友化学・住化武田農薬
お客様相談室　0120-677-088
発行責任者　古津　昇

目　次

JAS制度と特別栽培農産物(その1)・・・　P.1,2
IPMの現状と今後(シリーズ①)・・・・　P.3
雑草よもやま話(3)　・・・・・・・・・・・　P.4
新農薬紹介「イッテツフロアブル」・・・　P.5
住友化学アグログループ会社紹介
　＜日本エコアグロ＞　・・・・・　P.6
市場情報NO.1「房どりトマト」　・・・・・・　P.7
知って得する防除の仕方「ラベルは情報の宝」　P.7
今月の推進農薬　「デラウスプリンス粒剤」　P.8
農薬あれこれ？なぜなに？コーナ　・・・　P.9
今月の相談内容から「ばれいしょ種いも消毒」　P.9
　〃　「育苗期のいもち病防除について」　P.10
病害虫発生情報　「トマト黄化葉巻病」　P.10
コラム・そば談義　・・・・・・・・・・・・・・　P.11
編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.11

ＪＡＳ制度と特別栽培農産物（その１）

最近、有機農産物に関する情報が氾濫しているように感じられます。そこで、このテーマを取上げて、皆様と現状を整理していきたいと思います。

1.有機農業と有機農産物について

1)はじめに

有機農業とは、単に「化学合成肥料や化学合成農薬を使用しない農業」を意味するだけのものではありません。

1971年日本有機農業研究会(以下、日有研)が結成され、現代の農業技術体系、経営形態、農業労働観、流通システム、食べ物の消費構造、食料農業政策などを問い直し、本来のあるべき姿の農業を取り戻し、生活の変革を促していこうという思いが「有機農業」には、込められています。

1980年代後半、「有機農業」という言葉が社会的に通用するようになり、有機農産物が商品として一般に出回るようになると、有機農業の中味が正しく理解されないまま「有機」表示が氾濫するようになりました。そこで共通語として「有機農業の基準」「有機農産物の基準」を提示する必要性が生じてきました。

そこで、1988年日有研は有機農産物の定義を次のように定め、定義に当てはまらないものは有機と表示しないように対外的に働きかけ

始めました。内容は、生産から消費までの過程を通じて化学肥料、農薬等の合成化学物質や生物薬剤、放射性物質、遺伝子組み替え種子及び生産物を全く使用せずに、その地域の資源を出来るだけ活用し、自然が本来もっている力を尊重した方法で生産されたものとしました。一方、有機JAS法にもとづく国の定めた基準「有機農産物の農林(JAS)規格」は1999年7月に改正され、2000年1月に告示されました。

2)日本における有機農業の展開

次の3段階に分けられます。

第一次有機農業ブーム(1970年代):「産消提携」を中心に有機農業が広まっていった時期で、有機農産物を入手するには、消費者が生産者から直接共同購入する「産消提携」しか方法がなかった。海外では1972年に国際有機農業運動連名(*IFOMA)が発足した。

第二次有機農業ブーム(1970年代後半～1980年代後半):有機農産物に対する社会一般の関心が高まり「大地を守る会」などの専門流通事業体や自然食品店、デパート・スーパー、一般小売店など専門流通企業が拡大し、有機農産物ルートが多様化し始めた。チェルノブイリ原子力発電所の事故は環境問題に対する市民の意識を喚起した。

第三次農業ブーム(1990年代～):有機農産物が一般流通経路でも取り扱われるようになり、有機農産物のビジネス化が進行した。1992年に有機農産物等の特別表示ガイドラインが制定、2001年に表示規制が施行された。現在、日本は世界有数の有機農産物市場として有望視されている。

3)世界の有機農産物の流れ

有機農産物の基準と検査・認証制度は、現在「有機」の概念として国際的に共通認識されている「IFOAM基礎基準」と「＊＊コーデックスの有機食品の生産・加工・表示ガイドライン」である。後者は、WTO協定における有機食品の国際規格であり加盟国の間では強制力があります。その策定に当たってはIFOAM基礎基準が素案として用いられています。

1980年に有機農業生産物がニセモノから自分たちの有機農産物を守るために「有機生産の基礎基準」を定めIFOAM基礎基準が誕生しました。これはその後も2年ごとに改定し更新され続けています。今までは民間の国際共通基準として用いられています。これは、「有機生産の基礎の基準」であり、基準そのものではありません。

前述のコーデックスガイドラインが採択され、1999年に「基準・承認制度」の導入が法制化され、2001年4月から畜産物を除く有機農産物の表示規制が施行されました。これにより「有機」表示をする場合には、登録認定機関による認定を受け、有機JASマークを付さなければならなくなってきました。有機畜産についても最近国定基準に関する審議が終了し、表示規制が施行されることになりました。(次号に)

(F・N)

***IFOAM**(*International Federation of Organic Agriculture Movements*:国際有機農業運動連盟)は、1972年に設立された有機農業に関する世界最大の国際的な民間組織です。本部はドイツにあり、1998年現在、世界約100ヶ国以上にわたり、600を超える加盟団体を抱えています。日本からは、アクシスを含む11団体が正会員、5団体が賛助会員として参加しています。

***＊コーデックス規格**:FAO(国連食料農業機関)とWHO(世界保健機関)により合同で設置されたコーデックス委員会において判定された国際規格。

＜恵泉女学園大学澤登様セミナー要約から＞

有機JASマーク

ＩＰＭの現状と今後（シリーズ①）

タイリクヒメハナカメムシ
ミカンキイロアザミウマを捕食する成虫：ナミヒメハナカメムシやコヒメヒメハナカメムシに酷似し，本州西部，四国，九州で 3 種が混棲する （高井氏撮影）

最近、農業関係の新聞、雑誌あるいは講演会のテーマなどで「ＩＰＭ」という言葉が頻繁に登場するようになりました。たとえば、「ＩＰＭを考える」「ＩＰＭプログラムの現状と課題」「施設栽培におけるＩＰＭの展開」「ＩＰＭ実践指標作成へ」などのタイトルを見かけた方も多いかと思います。では、このＩＰＭとは具体的にはどのようなもので、なぜ最近話題に上るようになったのでしょうか。また、これからどうなっていくのでしょう。

このシリーズでは、今後、これからも話題に上ることが多いと思われるＩＰＭについて、その内容や意義、各地における実例、使われる技術などを紹介していく予定です。少しでもその理解を深める手助けになれば幸いです。

１．ＩＰＭとは

ＩＰＭ（Integrated Pest Management：総合的害虫管理、単に総合防除と呼ぶ場合もある）は、「あらゆる適切な防除手段を相互に矛盾しない形で使用し、害虫密度を経済的被害許容水準以下に減少させ、かつ低いレベルに維持するための害虫個体群管理システム」として定義されています(FAO, 1966)。ここでいう害虫（pest）は単に虫害を意味するだけでなく、広く病害や雑草害を含めるのが普通で、そのため総合的有害生物管理という場合もありますが、いずれにせよ従来の化学農薬主体の防除方法だけでなく、他の防除技術も組み合わせて総合的に病害虫や雑草を防除する方法や手段を意味します。図に示すようなイメージになるでしょうか。

ところで、ＦＡＯによるＩＰＭの提唱は、今から約４０年も前に行われています。ところが、「ＩＰＭ」とい言葉をよく聞くようになったのは、最近のことのように思えます。では、なぜいまＩＰＭなのでしょう。次回はその点についてふれてみます。（H･M）

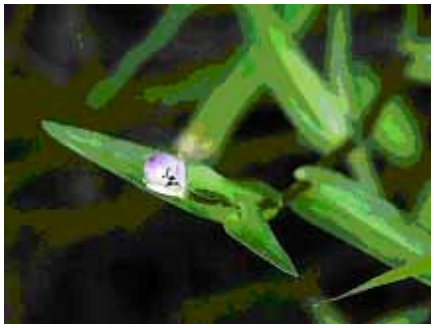
雑草よもやま話　（3）

雑草とは、「 絶えず外的な干渉や生存地の干渉が加えられていないと、その生活が成立、存続出来ないような一群の植物(笠原)」とも言われております。

水田においても基盤整備をしたり、植付け時期を変えたり、直播栽培から移植栽培に変えたり、収穫後に後作をしたり、使用する除草剤を変えたり、同じ除草剤を長年連用したりすると、発生する雑草の草種や発生量が変化します。これらは人間の干渉であり、そこで作物を栽培する限り雑草は発生します。

わが国の水田において、ノビエは昔から最も重要な防除対象ですが、他の雑草の重要度は時代により変化してきました。広く除草剤の普及が始まった昭和３０年代後半からはマツバイやヒルムシロ、その後はウリカワ、ミズガヤツリ、ホタルイなどの防除が大きな問題となりました。

しかし、新しい除草剤の普及により余り問題とならない状態まで防除できるようになりました。最近ではスルホニルウレア系除草剤（ＳＵ）の抵抗性雑草やイボクサ、イネ科多年生雑草のアシカキ、キシュウスズメノヒエなどの防除が問題化してきております。



イボクサ（ツユクサ科）

除草剤抵抗性雑草の出現は、日本では畑地でのパラコート抵抗性雑草と水田でのSU 抵抗性雑草の出現が主なものですが、諸外国では広範囲の種類の除草剤に対する抵抗性雑草の出現が報告されており、１９９９年までに延べ２３４種の雑草で抵抗性生物型の出現が認められております。

SU 系除草剤は極めて少ない使用量で幅広い種類の雑草に有効です。特にクログワイ、オモダカなど従来の除草剤では防除が難しかった雑草にも作用を示すことから、他剤と簡単に置き換えることが出来ません。そこで SU 抵抗性雑草に有効な成分を加えることにより問題の解決を図っております。しかし、抵抗性対策を行った除草剤でも、その１剤だけを連用すれば新たな抵抗性雑草の出現を促すことになり兼ねません。除草剤は価格や剤型、含有成分数だけで選定するのではなく、防除したい雑草の草種とその圃場の特性（土壌条件など）や栽培方法に適した作用性を持つ除草剤を選定し、その除草剤の性能が十分に発揮される正しい使い方をするべきだと考えます。（Ｉ・K）

アメリカアゼナ（ゴマノハグサ科）

新農薬紹介

イッテツフロアブル

今月は水稲用除草剤イッテツフロアブルをご紹介します。

本剤は、広範囲のイネ科以外の雑草に高い効果を示すイマゾスルフロンに、ノビエなどに高い効果を示すカフェンストロールと、一年生雑草、多年生雑草に高い効果を示す新規成分ベンゾビシクロンを配合した初・中期一発処理除草剤です。

これら３つの成分の組み合わせにより優れた特長を発揮します。

①広範囲の雑草に対して除草効果が高い

ノビエをはじめとする一年生雑草およびマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、オモダカ等の多年生雑草に加え、近年残草が問題となっているＳＵ抵抗性雑草や難防除雑草であるイボクサ、ヨバイヅルと呼ばれるアシカキやエゾノサヤヌカグサにも高い効果を示します。

②散布適期幅が広い

移植後５日からノビエの２．５葉期までと散布適期幅が広く、また現時点では関東・東山・東海のみの登録ですが、初期除草剤との体系により移植後１５～２５日間での散布が可能です。

③残効期間が長い

後発生が問題となるノビエ、ホタルイ等に対しても発生を長期間抑制します。本剤を散布する際は、水の出入りを止めて水深３～５ｃｍとし、散布後３～４日間はその状態のまま落水、かけ流しはしないで下さい。また、砂質土壌や漏水の大きな水田（減水深が２ｃｍ／日以上）、軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えの水田での使用は避けて下さい。

以上、イッテツフロアブルについてご紹介してきましたが、今年からイッテツ１キロ粒剤を上市し（現在、北海道、東北、北陸地域に登録があり、他の地域は適用拡大を申請中）、さらにジャンボ剤タイプも上市予定です。

今後、「イッテツシリーズ」のラインナップが益々充実してきます。そこで、ぜひ皆様には「ガンコイッテツ」と覚えて頂ければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

（ＩＺＵＭＩ・Ｋ）

住友化学アグログループ会社紹介

日本エコアグロ株式会社

日本エコアグロ株式会社を初めてお聞きになるお客様も多いかと存じます。

弊社は、平成１３年４月に設立されました。世界的な環境意識の高まりと「食」の安全・安心志向の広がりを背景として日本の農業も大きな変革を強いられており、その新たなニーズに応えるため「農業におけるトータルソリューションの提供」の一翼を担うべく事業活動を進めております。

ちょっと難しい表現で恐縮ですが、弊社はＩＣＭ（作物の地下部、地上部全体の栽培管理の視点から様々な技術を組み合わせて環境負荷を軽減しつつ、りっぱな農産物を生産する）という技術と資材を提供させて頂いております。具体的には、土壌診断や堆肥診断を踏まえた土作りと肥料設計、防除管理と全体の栽培管理など一連のサービスから成ります。地下部では、地力向上と栄養・ミネラルバランスを適切に実現させるための各種診断サービスと、機能と役割をはっきりさせた各種有機系肥料・資材を取り揃えております。例えば、根圏を保護しながら作物全体を健全化させるマイグリーン（微生物含有肥料）、優れた吸収率の珪酸を主成分としたNEAミネラル、お客様のご希望に合わせて配合比率や成分比をご提供する有機NEA肥料、センチュウなどで悩んでおられるお客様には、陸の恵み（高成分ニームケーキ肥料）などにお声を掛けられることをお待ちいたしております。

これらの地下部での技術や資材を栽培の支えとしながら、中核となる技術が、ＩＰM(総合防除)です。従来の化学農薬に加えて生物的な防除や耕種的手段、物理的手段を組み合わせて病害虫や雑草を少ない状態に保つ一種の技術システムです。住化・住武グループの誇る天敵や生物農薬、栽培環境に負荷を与えない農薬などを駆使し、上記の地下部での健全化資材・肥料と組み合わせることで、お客様に安心をご提供いたします。

弊社取組みの特徴としましては、上記のお取組みを頂いたお客様の農産物販売にも貢献することで、トータルソリューションの威力を一層高めることで、新たな販売先を開拓し、農産物の商品価値を出来るだけ反映してさしあげることでお客様の経営の安定に少しでも寄与したいと考えています。

弊社は、ＩＰMそしてＩＣMを軸にしてお客様の「栽培」と「農作物」に微力ではありますがお力添えを進めて参ります。また、そのための優れた商品や技術の普及と販売に鋭意努めて参ります。

市場情報　NO.１

『房どりトマト』

日本エコアグロ㈱
農産商品部　大家　修

皆さん、「房どりトマト」をご存知ですか？
写真のように茎に房状のトマトを着けたまま、イオン（新店）、山陽マルナカ等の量販店や三越百貨店、及び生協のカタログ販売に出荷されている人気農産物です。

栃木県の農業生産法人・グリーンステージ大平が施設栽培で、年間４２段まで収穫し、販売単価も市場価格に左右されずkg当たり７５０円で取引されています。ここまで安定した価格を維持できるようになったのは、この一年のことであり、農産物の商品性を高めることが重要であることの一例といえるでしょう。

この施設を経営する飯田社長は「農業経営では栽培技術も必要だが、一番大事なことは販売力であり、販売努力だ」と言い切られます。

今、販売先からの要望に応じきれない状況で嬉しい悲鳴を上げており、次のシーズンは栽培面積を倍増させていきたいと飯田社長と検討しています。
今後、楽しみな「房どりトマト」を、一度はご賞味ください！

知って得する防除の仕方

ラベルは情報の宝庫

（T・N）

薬液を調製するその前にまず、ラベルを読みましょう。

ラベルには成分、使用できる作物名や病害虫・雑草名が書いてあります。その作物に使う濃度や使用量、時期、回数が示されておりますので、必ずラベルを読んでから使用しましょう。使用する作物に登録のある農薬を使いましょう。

次に、注意を喚起するマークに、マスク・メガネ・手袋・防除衣・カブレ・魚毒・蚕毒などの表示があり、それに従って必要な準備をしましょう。また、防除器具の整備・点検は、事前にしましょう。作業中に防除器具が故障し薬害や事故につながることが以外と多いのです。例えば、液剤散布でホースの継ぎ目から薬液が噴出したり、前回散布した薬剤の残液が器具やホースに残っていて薬害問題を起こすこともあります。対策としてバケツ１杯の水（約２０リッター）を用意し、防除終了後に給水口をバケツに入れ、ホースの中の薬液を水に置き換えます。また、次回散布時には、散布口のノズルを薬液タンクに入れて水をタンクの中に入れて循環させます。これで必要な濃度の薬液を散布始めから確保できます。バケツの水は手洗いや散布で薬液を浴び、目に入った時の応急手当に役立ちます。このように、安全には事前の準備が必要です。

今月の推進農薬

デラウスプリンス粒剤

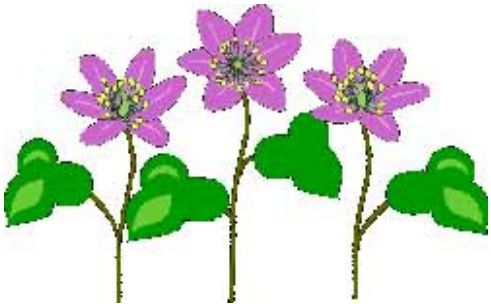
最近の水稲箱処理剤は、「害虫」及び「いもち病」「紋枯病」まで防除が可能になりました。

箱処理剤として最初の登録は、昭和５１年４月１７日のパダン粒剤４で、イネドロオイシ・イネハモグリバエ・ツマグロヨコバイが対象害虫でした。今から ２９年前になります。当時はイネドロオイムシの被害が甚大で水田が白く見え、パダンを箱処理した水田としない水田の違いは一目で分かったものです。今では箱処理剤の種類も６０余剤が登録されております。

さて、今月は最新の箱処理剤をご紹介します。住友化学が開発した長期持続型新規いもち剤「デラウス剤」とイネミズゾウムシ・ニカメイチュウ・ウンカ類・イナゴ類まで有効な「プリンス剤」との混合剤「デラウスプリンス粒剤」です。は種前から移植直前まで、いつの時期でも使用できます。よって、冬場の農閑期に床土に混和することができ、農繁期の作業量を大きく軽減できます。育苗段階で発病する苗いもち病は、本田への持込により「葉いもち病」の原因にもなります。そこで、は種時に処理すると、デラウス剤の有効成分がイネ体に吸収され育苗期間中の苗いもち病に効果を発揮し、本田へのいもち病菌の持込を防ぎます。また、は種機と施薬機を用いれば、より作業の効率化を図ることができます。

次に、「デラウスダントツ箱粒剤」は住化武田農薬が開発した新規殺虫剤「ダントツ剤」と「デラウス剤」を混合した水稲育苗箱処理剤です。ダントツ剤はイネドロオイムシ・イネミズゾウムシ・ニカメイチュウ・ウンカ類・ツマグロヨコバイ等に登録があります。また、本剤はネオニコチノイド剤の為、有機リン剤・カーバメート剤・合成ピレスロイド剤に対する感受性が低下した害虫にも高い効果を発揮します。人畜、魚介類及び有用天敵であるクモ類に対し影響が少なく、環境にもやさしい薬剤です。使用方法は移植３日前～移植当日です。両剤とも育苗箱（使用土壌約 5L）１箱当たり５０ｇを均一に使用します。

今年の、苗箱施用薬剤は弊社薬剤をご使用頂きますようよろしくお願いします。（T・N）



「野菜類」登録ってどういう野菜のことなのですか？

ご質問

家庭菜園で自家用にハクサイとネギを育てています。鍋の季節に重宝する野菜ですが、このところなにやら虫がついて食われてしまいます。何か効く薬を買ってみようと、お店に出かけて商品を見てみたところ「野菜類」に使えると書いてあるものがありました。でもこの「野菜類」とは、どこまで含まれるのでしょうか？自分の育てているハクサイとネギは(イメージ的に)野菜類に含まれそうですが、例えば、「サツマイモ」や「さやいんげん」は含まれるのでしょうか？素人ではちょっと判断がつきかねます。

お答え

野菜類に含まれない農作物としては、稲・麦類・果樹類・いも類・きのこ類・豆類（完熟した豆）・茶・雑穀類（とうもろこし、そば等）があります。
豆類でも成熟しきっていない状態で収穫するものは野菜類になります。
したがって、「さやいんげん」は野菜類となり、「さつまいも」はいも類となります。
蛇足ですが、大豆は豆類になりますが、ビールのつまみに好適な枝豆は、大豆の未成熟な状態のものなので、野菜類となります。　　（S・H、I・T）

今月の相談内容から

ばれいしょ・種いも消毒について

園芸店の店頭には「種ばれいしょ」がたくさん並べられ、植え付けを待っています。ばれいしょの栽培で土壌や種いもから感染して発病する病害が色々ありますが、種いも消毒が有効な病害は「黒あざ病」「そうか病」があります。

「黒あざ病」防除にバリダシン粉剤 DL か、ベンレート水和剤を種いも重量の０．３％粉衣処理します。注意事項は、未萌芽いもが乾燥していることと、切断前の処理が原則なの

ですが切断する場合は、切断面が乾いてから粉衣処理します。浸漬処理ではバリダシン液剤５の２００倍液に瞬時～１０分間浸漬、リゾレックス水和剤では５０～１００倍に１０分間浸漬、ノットバン水和剤では５０倍の瞬間処理浸漬になります。バリダシン液剤５は、種いもに２００倍散布もできます。「そうか病」防除ではノットバン水和剤の５０倍液に瞬間浸漬が有効で「黒あざ病」との同時防除ができます。マイシン剤は「そうか病」に対し浸漬処理又は散布が有効です。処理後は種いもを乾燥させてください。表面のぬれは腐敗を助長する恐れがあります。

いずれの処理法でも消毒後の種いもは食用や家畜の餌にはできません。また、消毒後の残液を河川に捨てたりせず、適正な処理をしてください。

育苗期に発生する水稲の「いもち病」防除について

育苗期間中に発生する病害には糸状菌（かび）であるピシウム菌・フザリウム菌・リゾクトニア菌・白絹病菌・リゾープス菌・トリコデルマ菌などと、細菌性病害であるもみ枯細菌病・苗立枯細菌病があります。防除薬剤は、ピシウム菌にはタチガレエース粉剤や液剤があります。リゾープス菌にはダコニール１０００やダコレート水和剤がよく効きます。細菌病にはスターナ水和剤やカスミン粒剤や液剤があります。

本田のいもち病はいもち病菌で汚染された種もみが原因でも発生します。いかに感染していない苗を移植するかが、本田の発生を抑えるキーポイントです。また、種籾消毒では完全に防除が出来ず苗いもちが発生する場合があり、ベンレート水和剤が箱育苗で使用されています。使用方法は、は種時に１回または、は種時とは種７日後頃に５００～１０００倍の２回散布です。

デラウス粒剤は、は種時に処理をするとデラウスの有効成分が徐々にイネの体内に吸収されますので、育苗期間中のいもち病を抑え、本田へのいもち病菌の持ち込みを防ぐことが出来ます。このように、本田での葉いもち病のもとになる感染源を絶つこともまた、長期間発病を抑えるというデラウス箱粒剤の特長の一要因です。

（T・N）

病害虫発生情報

２月に出された病害虫発生予察特殊報をお知らせします

トマト　＜トマト黄化葉巻病：埼玉県＞

本病はシルバーリーフコナジラミにより媒介されるウイルス病です。この防除には、育苗期から定植時、生育期のシルバーリーフコナジラミの徹底防除が必要です。

シルバーリーフコナジラミ

防除例

◎は種時又は鉢上げ時の育苗培土にベストガード粒剤を混和する（５ｇ／培土Ｌ）。
◎定植時の植穴にダントツ粒剤を土壌混和する（１ｇ／株）。
◎生育期にベストガード水溶剤(1000～2000 倍)・ダントツ水溶剤(2000～4000 倍)
・スミロディー乳剤(2000 倍)などを散布する。　　（Ｉ・Ｔ）

【写真の解説】シルバーリーフコナジラミとオンシツコナジラミを見分けるには，蛹を観察する。シルバーリーフコナジラミは，偏平，黄色で，体表に刺毛や刺状分泌物がほとんどない。
一方，オンシツコナジラミは「大判焼き」を楕円形にしたような形をしており，白っぽく，長い刺状分泌物を多数有している。また，成虫の翅が葉面に対して 45 度以上の角度でたたまれているのがシルバーリーフコナジラミ，葉面に対してほぼ平行にたたまれているのがオンシツコナジラミである。

コラム・そば談義

相談室の仲間と、そば屋さん廻りをして楽しんでいる。

先日も、門前仲町にあるそば屋の暖簾を潜り「もりそば」を注文した。その時、必ず店の主人に聞くことがある。それは、「玄そば」はどこの産地か、またそば粉とツナギの配合割合はどれぐらいかと。そして、出されたそばを一本箸で摘んで目で確かめ・匂いを嗅ぎ・それを口に入れて初めて、つくり手の人柄やそばに対する意気込みなどが、何となく分かったような気分になれるので不思議だ。

さて、そばを打つ人は料理人でなく「職人」と呼ぶ。そのわけは、まず体力がいる。また、出来上がったものに非常にこだわる傾向がある。私も、かなりの量を我が家で打つ機会があり、張り切って打ってはみたが揃ったそばが出来ず、おまけに翌日になると疲れが一日中残り、自身の不甲斐無さに落ち込んだものである。

それに比べて本職は、毎日苦もなく多くのそばを打つ。また、出来上がったものは当然だが揃っている。そこで、私が思うには、「そば職人」と呼ばれる所以は、気力・体力および技術（心・技・体）が揃わないと職人と呼べないのであろう。彼らの追及するところは、「そば」と「つゆ」が一体となり、お客さんから「美味しい」と言って貰えるその言葉が欲しくて頑張っているのだろう。またそれを実行しているそば屋さんが、いつも繁盛していることになる。

我相談室も、お客様からの問合せに的確に対応し、その回答に満足して喜んで頂けるようになりたい。そして、「相談室は職人集団だ」と呼ばれるようになれればと思うのだが・・・・。　　（F・N）

［編集後記］

3 月の天候は、三寒四温と言う言葉がぴったりです。
今月になって太平洋側に雪や雨が多くなったのも春の兆しです。これから、種もみを撒き 4 月になれば田起こしが始まります。水田に水が入れば、もう田植えなどと考えていると 1 年が、あっという間に過ぎ去ります。

そうならないように、今年はじっくり暮らしたいと思っていますがどうなりますか。

さて、「相談室だより」は、住友化学の「Ｉ－農力」のホームページに掲載されています。そこに、行くには goo のホームページから住友化学で検索頂ければ「Ｉ－農力サイトへようこそ」というのがありますので、そこから入ってください。そして、会員になって頂ければ毎月メールでお届けいたします。

表紙の挿絵「梅にうぐいす」　技術顧問　冨樫氏作